

令和元年

火災と救急・救助の概要



三木市消防本部

目 次

[火災概要]

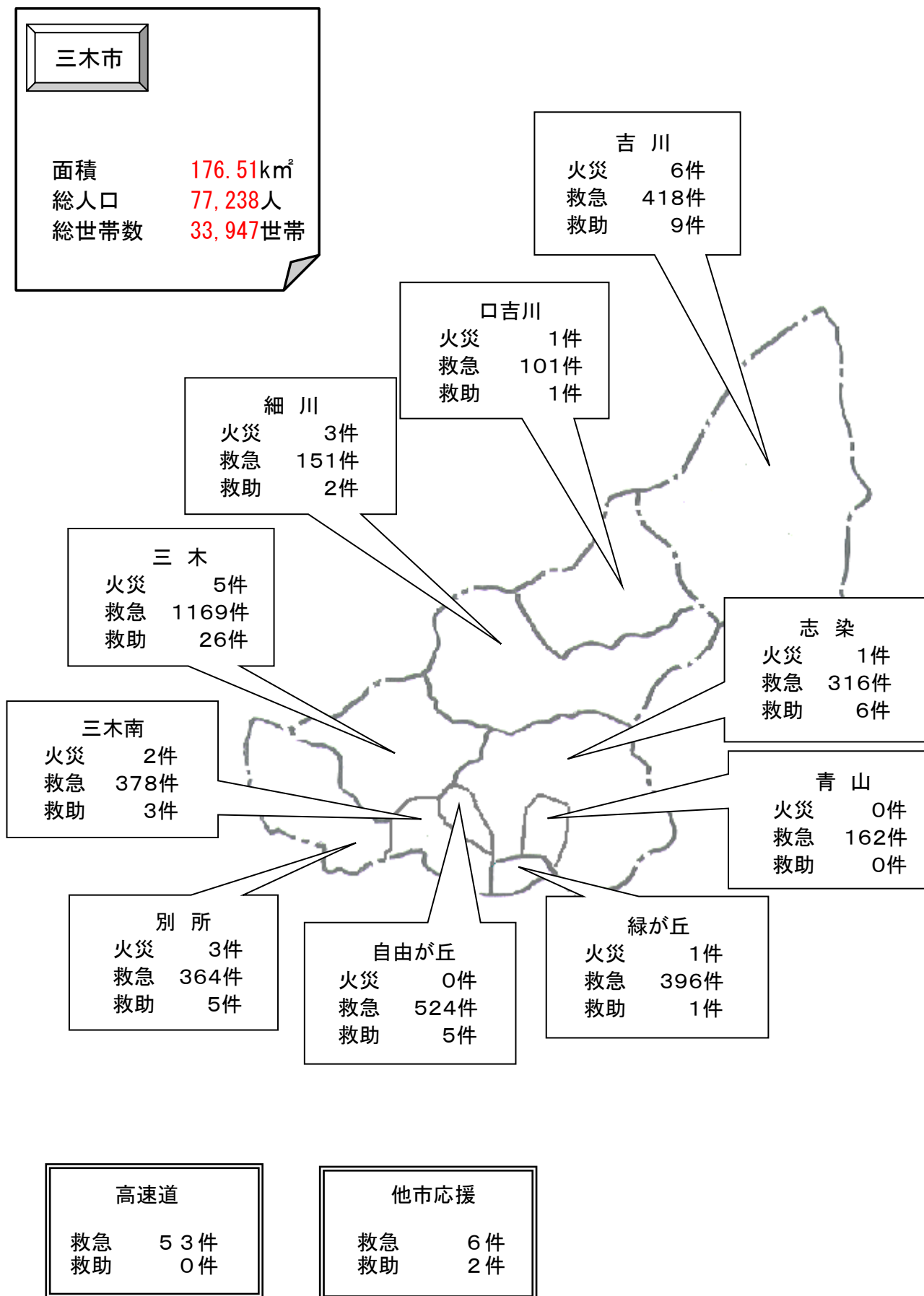
地区別発生件数	… 1	火災による損害額(5年間)	… 8
令和元年中の火災概要	… 2～3	管内出火件数・	
火災概要(対前年比)	… 4	損害額の推移(5年間)	… 8
火災の発生状況		出火原因別件数	… 9
地区別出火件数	… 5	初期消火の状況	… 9
月別火災種別出火件数	… 5	火災による死者数(10年間)	… 10
四季別出火件数	… 6	主な火災発生状況	… 10
月別出火件数(5年間)	… 6	高速道路における火災発生状況	… 11
曜日別出火件数	… 6	消防部隊出動状況(対前年比)	… 11
時間別出火件数	… 7		
署別出火件数	… 7		

[救急・救助概要]

令和元年中の救急・救助概要	… 12～14	事故種別救急搬送人員	… 19
救急出場件数	… 15	傷病程度別救急搬送人員	… 19
発生地区別出場件数	… 15	発生場所別救急出場件数	… 20
署別救急出場件数	… 15	事故種別年齢別搬送人員	… 20
救急出場件数の推移	… 16	性別科目別搬送人員	… 20
事故種別救急出場件数	… 16	高速道路における救急活動状況	… 21
月別救急出場件数	… 17	応急処置件数	… 21
曜日別救急出場件数	… 17	救助出動状況	… 22
時間別救急出場件数	… 18	地区別救助出動件数	… 22
現場到着所要時間別救急出場件数	… 18	発生場所別救助出動件数	… 22
収容所要時間別搬送人員	… 19		

地区別発生件数

〔人口・世帯数については
令和元年12月31日現在〕



令和元年中の火災概要

1. 概況

令和元年中の出火件数は22件で、損害額は4,077万9千円、建物焼損床面積1,470㎡、林野焼損面積40a、り災世帯11世帯、り災人員20人となっています。

2. 出火件数

(1) 出火件数

出火件数は22件（前年比6件減）で、17日に1件（前年比4日減）の割合で発生しています。

出火率（人口1万人当りの出火件数）は2.85ポイント（前年比0.74ポイント減）となっています。

(2) 火災種別毎の出火件数

建物火災10件（46%、前年比8件減）が最も多く、次いで林野火災4件（18%、前年比3件増）、車両火災4件（18%、前年比同値）、その他火災4件（18%、前年比1件減）となっています。

建物火災の内訳は、住宅5件、工場2件、その他建物3件となっています。

(3) 死者・負傷者

令和元年中の火災による死者はなく（前年比1人減）、負傷者は2人（前年比8人減）となっています。

(4) 焼損棟数

焼損棟数は16棟（前年比14棟減）で、全焼棟数は9棟（前年比3棟減）となっています。

(5) り災世帯・り災人員

り災世帯は11世帯（前年比3世帯減）で、り災人員は20人（前年比8人減）となっています。

(6) 焼損面積

建物焼損床面積は1,470㎡（前年比441㎡減）で、林野焼損面積は40a（前年比21a増）となっています。

(7) 出火原因

出火原因のトップは「たき火」の8件となっており、「たばこ」「灯火」が各2件、「電気装置」「内燃機関」「溶接機・溶断機」「放火の疑い」が各1件、「その他」5件、「不明（調査中含む）」が1件となっています。

(8) 損害額

火災による損害額は4,077万9千円（前年比3,899万1千円減）となっています。

建物損害額（収容物含む）は3,840万6千円（前年比3,577万9千円減）で、建物火災1件あたりの損害額は384万1千円（前年比28万円減）となっています。（調査中を除く。）

3. まとめ

令和元年中の出火件数は22件（前年比6件減）、損害額は4,077万9千円（前年比3,899万1千円減）、火災による死者はなく（前年比1人減）、負傷者は2人（前年比8人減）で、火災件数・損害額・死傷者数ともに昨年より減少しています。

火災を防ぐためには、一人ひとりが防火に対する意識を変えることが大切です。

昨年に続き、出火原因のトップはたき火でしたが、たき火からの火災を防ぐためには事前に周囲に水を撒くことや、水バケツを用意する等の準備が必要です。火を扱う行為を安易に考えず、慎重すぎるくらいの行動が大切です。

住宅防火対策として、住宅用火災警報器が設置されていたことで、火災を早期に発見でき大事に至らなかった奏功事例もあることから、住宅用火災警報器の設置及び維持管理について啓発してまいります。

火災概要（対前年比）

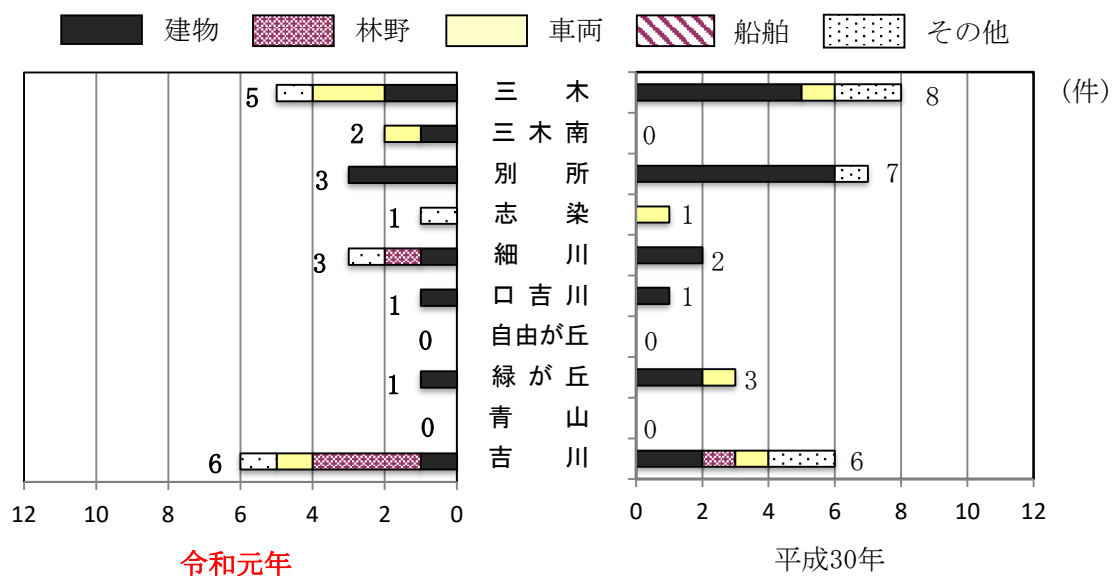
出火件数は前年と比べ6件減少。火災種別では建物火災が8件、その他火災が1件減少し、林野火災が3件増加しています。

区 分				単 位	令和元年	平成30年	増 減
出 火 件 数	建 物			件	22	28	△ 6
	内	住 宅	件	5	8	△ 3	
		工 場	件	2	4	△ 2	
		その他	件	3	6	△ 3	
	林 野			件	4	1	3
	車 両			件	4	4	0
	船 舶			件	0	0	0
	そ の 他			件	4	5	△ 1
損 害 額	建 物			千円	40,779	79,770	△ 38,991
	内	建 物	千円	38,406	74,185	△ 35,779	
		収 容 物	千円	29,817	50,752	△ 20,935	
	記	収 容 物	千円	8,589	23,433	△ 14,844	
		林 野			千円	0	0
	車 両			千円	1,863	4,520	△ 2,657
	船 舶			千円	0	0	0
	そ の 他			千円	510	1,065	△ 555
爆 発			千円	0	0	0	
建 物 焼 損 棟 数	建 物 焼 損 棟 数			棟	16	30	△ 14
	全 焼			棟	9	12	△ 3
	半 焼			棟	0	2	△ 2
	部 分 焼			棟	3	9	△ 6
	ぼ や			棟	4	7	△ 3
爆 損	損害棟数			棟	0	0	0
	車両等数			台	0	0	0
焼 損	建物床面積			㎡	1,470	1,911	△ 441
	建物表面積			㎡	26	82	△ 56
	林 野			a	40	19	21
	車 両			台	5	8	△ 3
	船 舶			艇	0	0	0
負 傷 者				人	2	10	△ 8
死 者				人	0	1	△ 1
り 災 世 帯	世 帯			世帯	11	14	△ 3
	全 損			世帯	7	7	0
	半 損			世帯	0	0	0
	小 損			世帯	4	7	△ 3
り 災 人 員				人	20	28	△ 8
建物1件当りの損害額				千円	3,841	4,121	△ 280
〃 焼損床面積				㎡	147	106	41

△ 印は減少

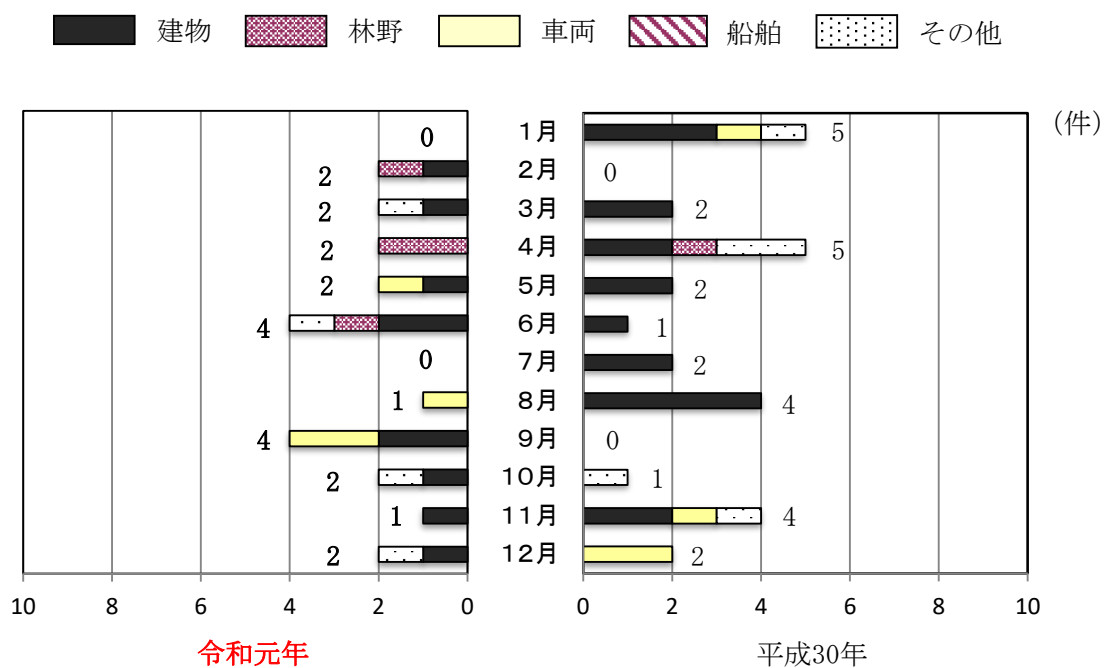
地区別出火件数

前年と比較すると、三木南地区、細川地区が増加し、三木地区、別所地区、緑が丘地区は減少、その他の地区については増減はありませんでした。



月別火災種別出火件数

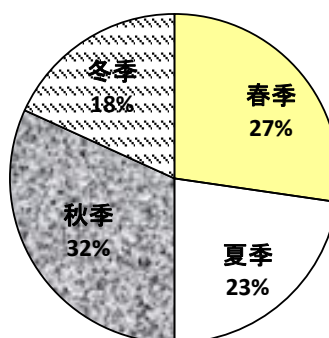
前年と比較すると、2月・6月・9月・10月が増加し、1月に大幅な減少が見られます。



四季別出火件数

春季(3・4・5月)	6 件
夏季(6・7・8月)	5 件
秋季(9・10・11月)	7 件
冬季(12・1・2月)	4 件
計	22 件

出火件数比率

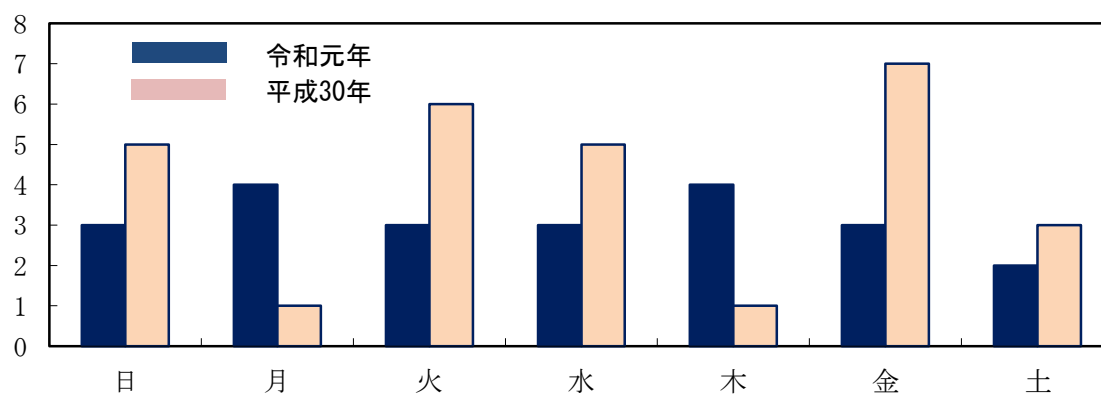


月別出火件数（5年間）

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
令和元年	0	2	2	2	2	4	0	1	4	2	1	2	22
平成30年	5	0	2	5	2	1	2	4	0	1	4	2	28
平成29年	1	3	7	1	8	1	3	2	4	1	2	6	39
平成28年	1	4	4	5	5	0	2	5	1	0	0	1	28
平成27年	1	3	8	2	5	0	2	2	3	4	3	2	35

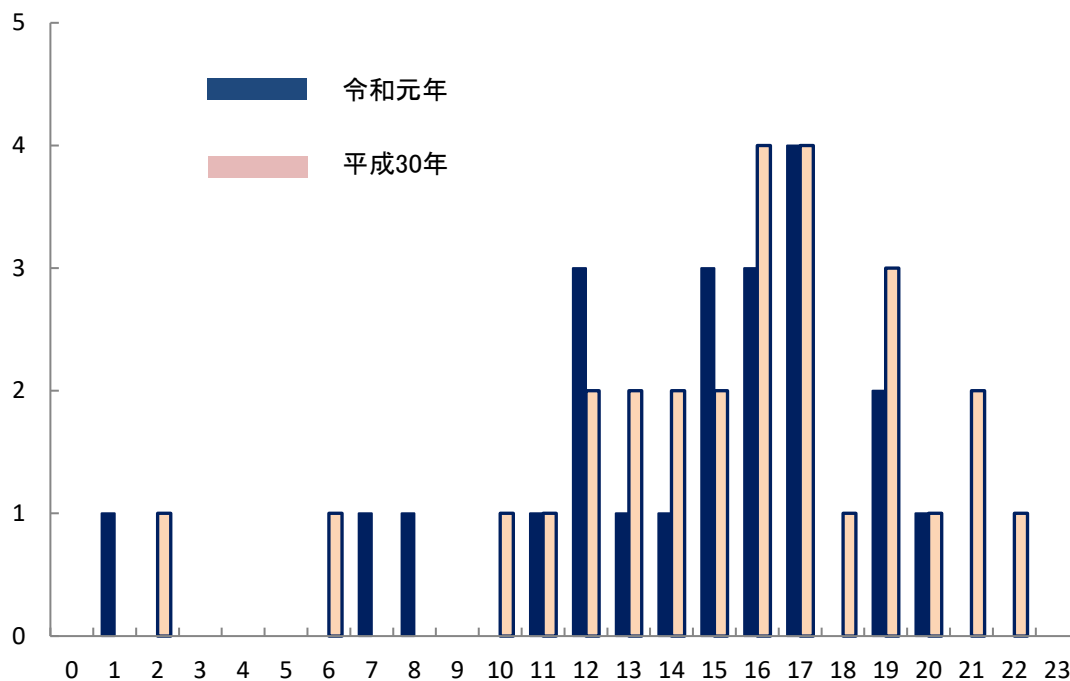
曜日別出火件数

月曜日・木曜日に多く発生しています。



年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和元年	3	4	3	3	4	3	2	22
平成30年	5	1	6	5	1	7	3	28

時間別出火件数



時間 年	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
令和元年	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3	1	1	3	3	4	0	2	1	0	0	0	22
平成30年	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	2	2	2	4	4	1	3	1	2	1	0	28

署別出火件数

本署、広野分署、吉川分署の3署とも出火件数は減少しています。

種別	建物		林野		車両		船舶		その他		合計	
年 署別	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年
本 署	7	11	0	0	3	2	0	0	2	3	12	16
広野分署	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3
吉川分署	1	5	4	1	1	1	0	0	2	2	8	9
合 計	10	18	4	1	4	4	0	0	4	5	22	28

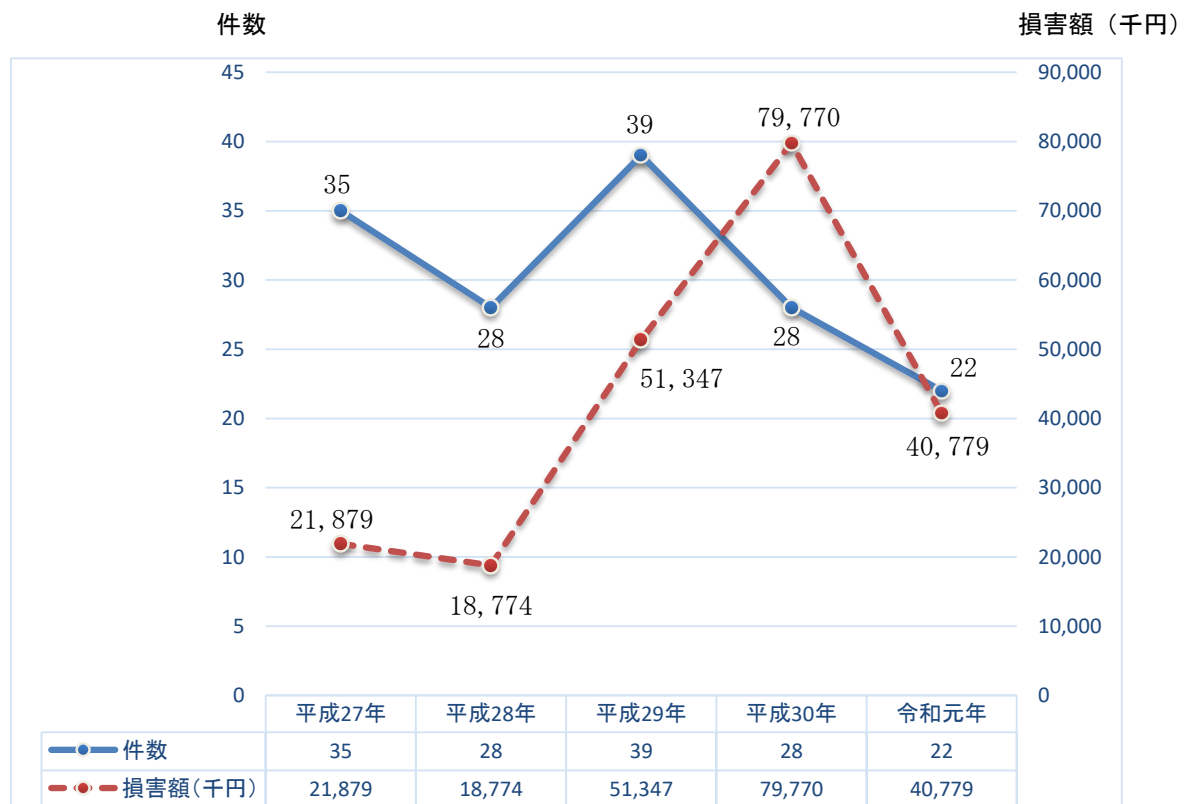
火災による損害額（５年間）

（損害額単位：千円）

年		令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年
火災損害額		40,779	79,770	51,347	18,774	21,879
内訳	建物	38,406	74,185	46,586	15,039	18,234
	林野	0	0	0	0	0
	車両	1,863	4,520	1,361	3,555	1,577
	船舶	0	0	0	47	0
	その他	510	1,065	3,400	133	2,068
1件当り損害額		1,854	2,849	1,317	671	625
出火件数		22	28	39	28	35
内訳	建物	10	18	18	9	18
	林野	4	1	2	4	2
	車両	4	4	6	5	4
	船舶	0	0	0	1	0
	その他	4	5	13	9	11

※損害額は爆発損害をその他に含む。

管内出火件数・損害額の推移（５年間）



出火原因別件数

出火原因のトップは「たき火」の8件で、全体の36%を占めています。

出 火 原 因	令和元年	平成30年
た ば こ	2	
こ ん ろ		2
風呂かまど		
炉		
焼却炉		
ストーブ		2
こたつ		
ボイラー		
煙突・煙道		
排気管		1
電気機器		
電気装置	1	2
電灯・電話等の配線		
内燃機関	1	
配線器具		
火あそび		
マッチ・ライター		1
た き 火 ※ 1	8	9
溶接機・溶断機	1	2
灯 火	2	1
取 灰		
火 入 れ		
放 火		
放火の疑い	1	
そ の 他 ※ 2	5	6
不明（調査中含む）	1	2
合 計	22	28

※ 1

たき火欄 内訳	令和元年	平成30年
た き 火	2	4
虫 焼 火	1	5
焼 却 火	5	0
合 計	8	9

※ 2

その他欄 内訳	令和元年	平成30年
自然発火	1	
金属との衝撃の火花	2	
穀物乾燥機	1	
ロースター	1	1
交通機関内配線		2
ガスバーナー		1
燐炭の再燃		1
タイヤと路面の摩擦		1
合 計	5	6

初期消火の状況

令和元年は22件の火災が発生し、そのうち19件で何らかの初期消火を行っています。

項 目	令和元年		平成30年	
	実 施	有 効	実 施	有 効
消火器以外の消防用設備	0	0	0	0
水 バ ケ ツ	2	1	2	0
消 火 器	6	3	8	5
水道・浴槽・汲み置きの水	7	4	10	5
寝具・衣類等のかけた	0	0	0	0
も み 消 し た	3	1	1	1
そ の 他 ※	1	1	0	0
合 計	19	10	21	11
初 期 消 火 な し	3		7	

※ その他欄 内訳 → 飲料水冷却用の氷

火災による死者数（１０年間）

地区 \ 年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年
三 木		1	1	1	1			1		
三木南										
別 所			1							
志 染									1	
細 川			1							
口吉川										
緑が丘										
自由が丘								1	1	
青 山										
吉 川								1		
合 計	0	1	3	1	1	0	0	3	2	0
兵庫県	—	72	57	54	62	70	60	70	54	65
全 国	—	1,422	1,456	1,452	1,678	1,625	1,721	1,766	1,734	1,877

※令和元年の全国・兵庫県の統計については、現時点では発表されていません。

主な火災発生状況

発生 月日	火災 種別	覚知 時間	鎮火 時間	発生場所	火災状況
9/1	建物	17:09	21:42	細川町垂穂	木造２階建て住宅、母屋、離れ及び納屋を含む３棟が全焼し、普通乗用車１台が焼損。
9/25	建物	19:33	0:03	別所町高木	鉄骨造１階建て作業所、工場、倉庫及び宿舎を含む５棟が全焼し、６世帯がり災。

高速道路における火災発生状況

高速道路における火災は1件となっています。

発生 月日	火災 種別	覚知 時間	鎮火 時間	発生場所	火災状況
8/7	車両	12:45	12:58	山陽自動車道 三木小野 インターチェンジ料金所	普通貨物自動車荷台の廃材及び荷台 の一部が焼損。

消防部隊出動状況（対前年比）

部隊出動件数は、昨年より106件減少の231件となっています。

署 別		本 署		広野分署		吉川分署		合 計		増 減
種 別	年	令和 元年	平成 30年	令和 元年	平成 30年	令和 元年	平成 30年	令和 元年	平成 30年	—
		123	134	55	64	49	71	227	269	△42
警 戒		123	134	55	64	49	71	227	269	△42
応 援		1	2	1	0	2	1	4	3	1
風 水 害		0	36	0	15	0	14	0	65	△65
合 計		124	172	56	79	51	86	231	337	△106

※ 「警戒」 偵察・煙火・自火報・誤報・救急支援・油処理・ガス漏洩・その他

「応援」 近隣応援(境界、管轄高速道への出動)

令和元年中の救急・救助概要

1. 概況

令和元年中の救急出場件数は4,038件（前年比2件増）で、搬送人員は、3,770人（前年比50人、1.4%増）と、いずれも過去最多となっています。

1日の平均出場件数は11.1件（前年同値）で、市民約19人に1人（前年同値）が救急車を利用したことになります。

令和元年中の救助出動件数は60件（前年比13件減）となっています。

2. 救急出場件数

（1）救急出場件数

出場件数は4,038件（前年比2件増）で、過去最多となっています。

（2）発生地区別出場件数

三木地区の1,169件（28.9%）が最も多く、続いて自由が丘地区524件（13.0%）、吉川地区418件（10.4%）、緑が丘地区396件（9.8%）の順となっています。

（3）事故種別出場件数

事故種別では急病2,467件（61.1%）が最も多く、続いて一般負傷685件（17.0%）、転院搬送364件（9.0%）、交通事故329件（8.1%）の順となっています。

（4）月別・曜日別・時間別状況

月別では1月の391件が最も多く、続いて8月の384件、9月の371件の順となっています。最も少ないのは6月の286件です。

曜日別では木曜日の615件が最も多く、続いて日曜日の598件です。最も少ないのは水曜日の518件です。

時間別では10時台の270件が最も多く、続いて12時台の262件です。最も少ないのは4時台の53件です。

（5）現場到着所要時間（覚知～現場到着）

平均所要時間は7.8分（前年8.0分）、5分以上10分未満のものが2,611件（64.7%）と最も多く、続いて10分以上20分未満が812件（20.1%）となっています。

（6）病院到着所要時間（覚知～病院収容）

平均所要時間は39.2分（前年39.2分）、30分以上60分未満のものが2,554件（67.7%）と最も多く、続いて20分以上30分未満が864件（22.9%）となっています。

3. 救急搬送人員

（1）傷病程度別搬送人員

軽症2,039人（54.1%）、中等症1,581人（41.9%）、重症117人（3.1%）、死亡33人（0.9%）の順となっています。

(2) 事故種別年齢別搬送人員

急病の2,273人(60.3%)が最も多く、続いて一般負傷641人(17.0%)、転院搬送361人(9.6%)の順になっています。

また、年齢別では65歳以上の高齢者が2,380人(63.1%)を占めています。

(3) 性別・科目別搬送人員

男性2,032人(53.9%)、女性1,738人(46.1%)で、294人男性を多く搬送しています。

内科1,902人(50.5%)が最も多く、続いて脳神経外科662人(17.6%)、整形外科649人(17.2%)、外科304人(8.1%)の順となっています。

4. 応急処置件数

搬送人員3,770人のうち、3,767人に応急処置を実施しており、応急処置件数は、のべ11,190件となっています。

血中酸素飽和度測定と血圧測定が多く、救急救命士による傷病者の蘇生等のために行う特定行為は111件となっています。

5. 救助件数

(1) 救助出動状況

出動件数は60件(前年比13件減)で、救助人員34人(前年比13人減)となっています。事故種別では、交通事故が25件(41.7%)と最も多く、続いて建物等による事故24件(40.0%)、火災4件(6.7%)の順になっています。

(2) 地区別救助出動件数

三木地区が26件と最も多く、続いて吉川地区9件、志染地区6件の順になっています。

(3) 発生場所別救助出動件数

住居での事故等が29件(48.3%)で、高速道・道路での交通事故が25件(41.7%)となっています。

6. 救急業務の高度化

高度救急資器材の整備に努めるとともに、気管挿管、薬剤(アドレナリン)投与が行なえる認定救命士の養成、そして平成26年の救急救命士の処置拡大に伴い心肺機能停止前の輸液、並びに血糖測定、低血糖発作傷病者へのブドウ糖投与が実施可能な認定救命士を養成しています。

また、平成28年度から、所属の救急救命士及び救急隊員を指導するのに必要な医学的知識と技術を持つ指導救命士を2名養成、今年度中にもう1名が誕生し、計3名となり更なる救急業務の高度化を進めてまいります。

7. まとめ

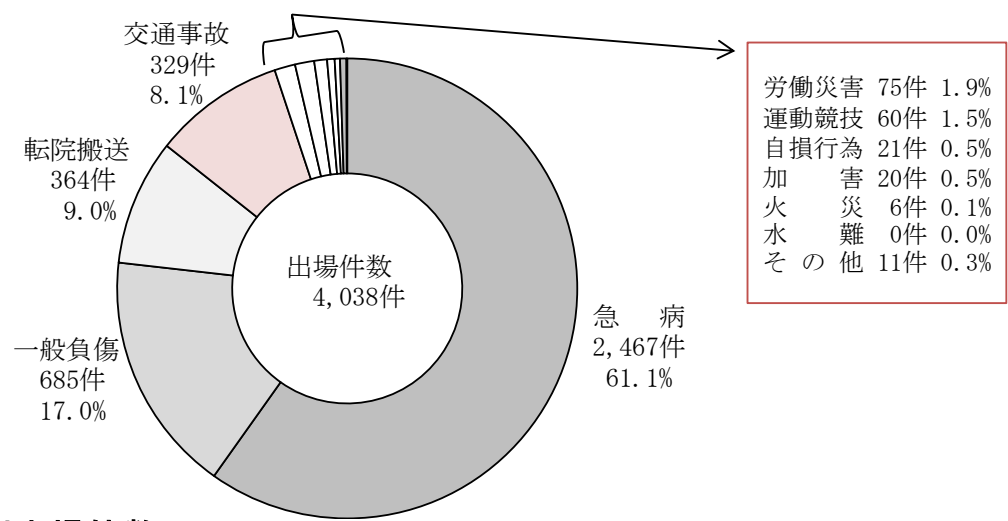
救急出場件数は前年比2件増加の4,038件で過去最多の出場件数となり、2年連続で4,000件を超えています。10年前と比較すると、年間約1,000件の増加となっています。

全搬送人員に占める高齢者の比率は63.1%（前年64.1%）で、高齢化に伴い、平成28年から高齢者の比率が60%を超える状況となっています。

救助出動件数については、建物等による事故が近年増加傾向にあり、過去5年間の救助出動件数308件のうち103件と全体の33.4%を占めています。主に一人暮らしの高齢者に対し、家族等からの安否確認による出動となっています。

救急出場件数

救急出場件数 4, 0 3 8 件のうち急病が 6 割以上を占め、続いて一般負傷の順となっています。



発生地区別出場件数

三木地区、自由が丘地区、吉川地区で出場件数が増加しています。

地区	年	令和元年	平成30年	平成29年
出 場 件 数		4,038	4,036	3,784
三 木		1,169	1,141	1,140
三 木 南		378	394	342
別 所		364	367	334
志 染		316	322	278
細 川		151	163	135
口 吉 川		101	111	104
緑 が 丘		396	402	366
自由が丘		524	501	473
青 山		162	162	168
吉 川		418	404	377
高 速 道		53	40	43
そ の 他		6	29	24

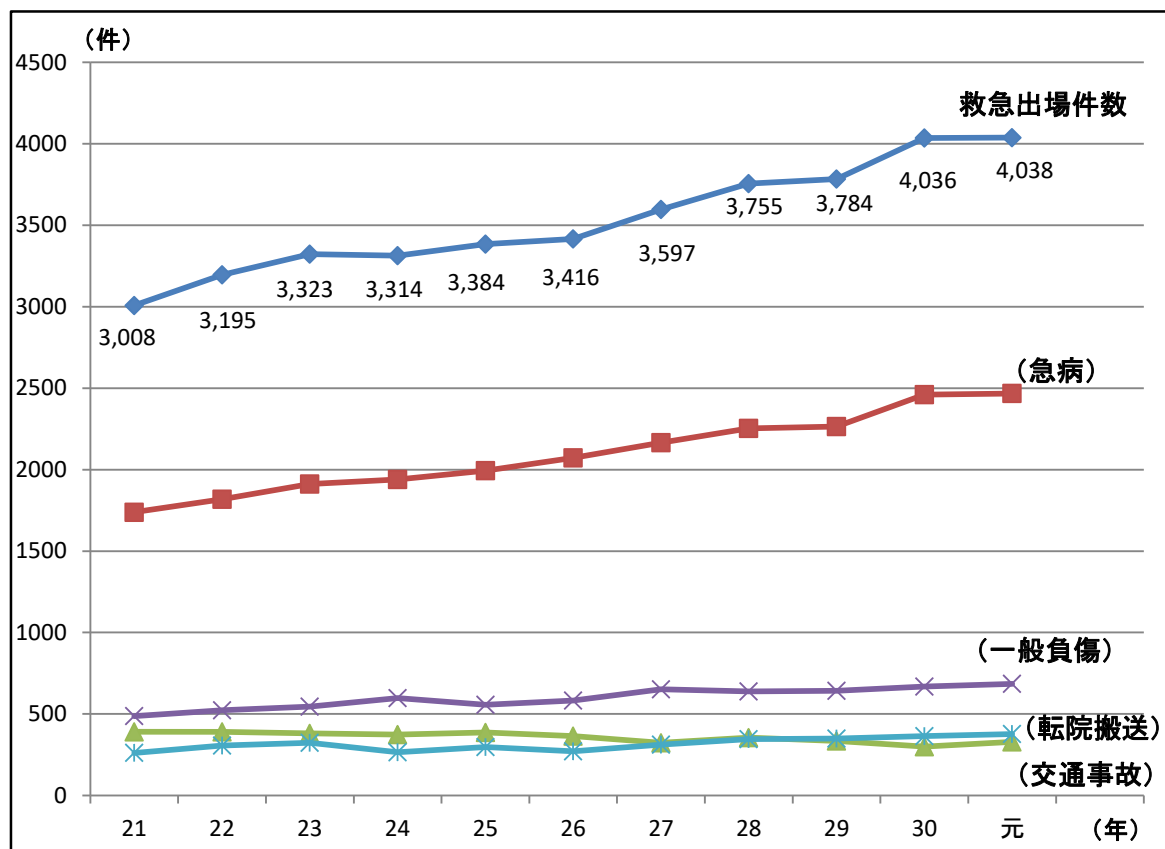
署別救急出場件数

出場割合は、本署 5 3 . 3 %、広野分署 3 3 . 2 %、吉川分署 1 3 . 5 %となっています。

事故種別	署別	本 署	広 野	吉 川
火 災		4	1	1
自 然 災 害		0	0	0
水 難		0	0	0
交 通 事 故		188	96	45
労 働 災 害		45	13	17
運 動 競 技		29	27	4
一 般 負 傷		388	201	96
加 害		10	8	2
自 損 行 為		13	4	4
急 病		1,256	894	317
そ の 他		219	98	58
合 計		2,152	1,342	544

救急出場件数の推移

救急出場件数は前年比2件増加の4,038件で過去最多の出場件数となり、2年連続で4,000件を超えています。



事故種別救急出場件数

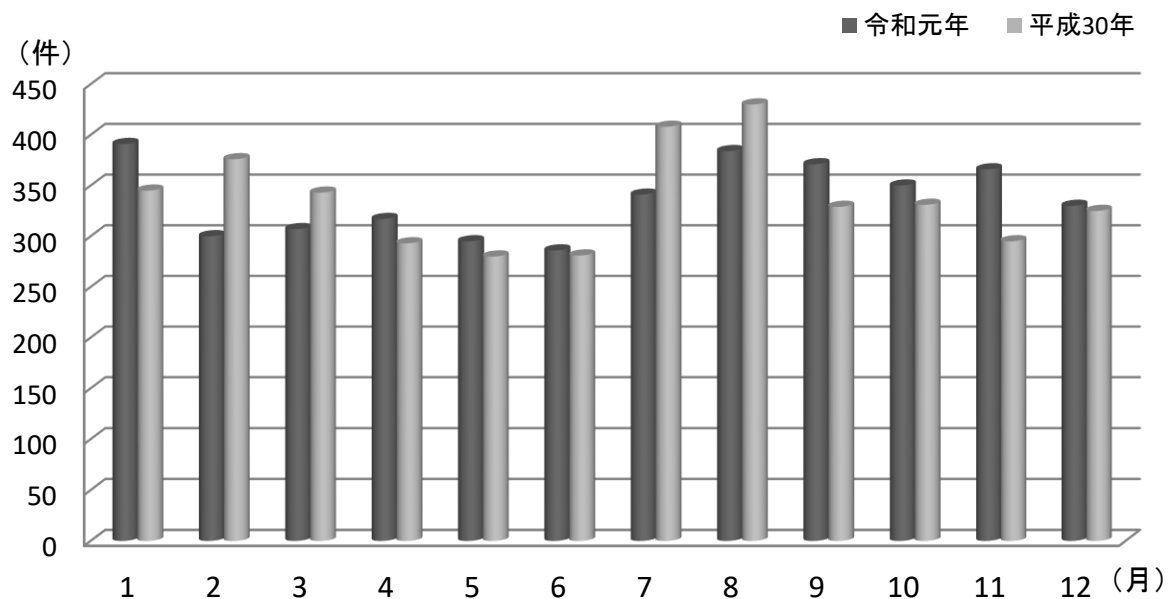
交通事故の増加と、労働災害の減少が目立っています。

事故種別		年	令和元年	平成30年	増 減
火 災			6	19	△ 13
自 然 災 害			0	0	0
水 難			0	1	△ 1
交 通 事 故			329	300	29
労 働 災 害			75	98	△ 23
運 動 競 技 傷			60	44	16
一 般 負 傷			685	669	16
加 害			20	23	△ 3
自 損 行 為			21	30	△ 9
急 病			2,467	2,461	6
そ の 他	転院搬送		364	377	△ 13
	医師搬送		0	1	△ 1
	資器材搬送		0	0	0
	そ の 他		11	13	△ 2
合 計			4,038	4,036	2

△印は減少

月別救急出場件数

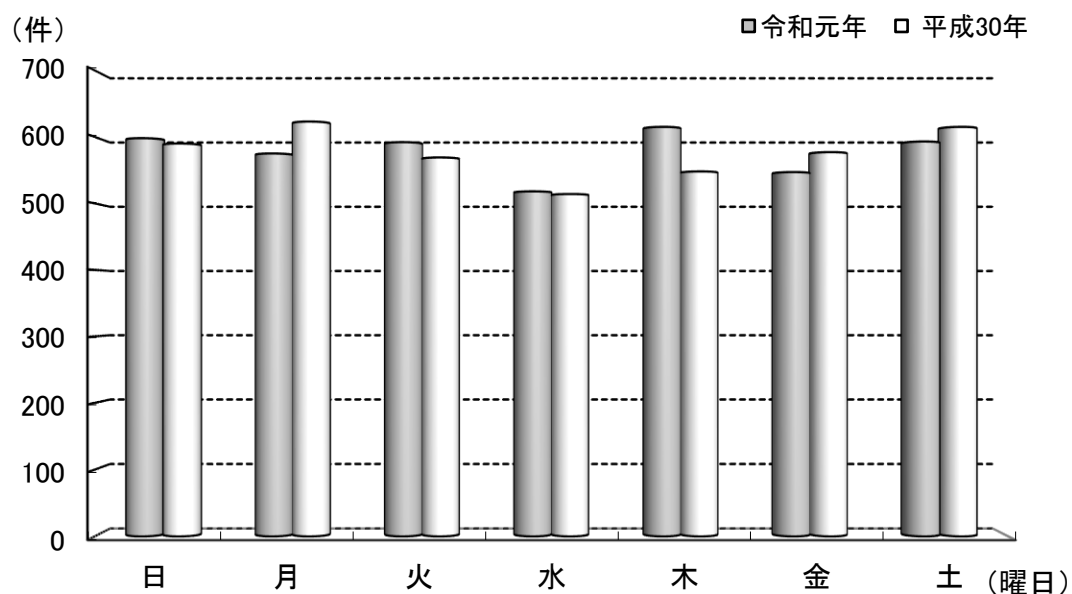
1月が最も多く、続いて8月となっています。最も少ないのは6月です。
1ヶ月平均336.5件、1日平均11.1件出場しています。



年 \ 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和元年	391	300	307	317	295	286	341	384	371	350	366	330	4,038
平成30年	345	376	343	293	280	281	408	430	329	331	295	325	4,036

曜日別救急出場件数

木曜日が最も多く、続いて日曜日となっています。最も少ないのは水曜日です。

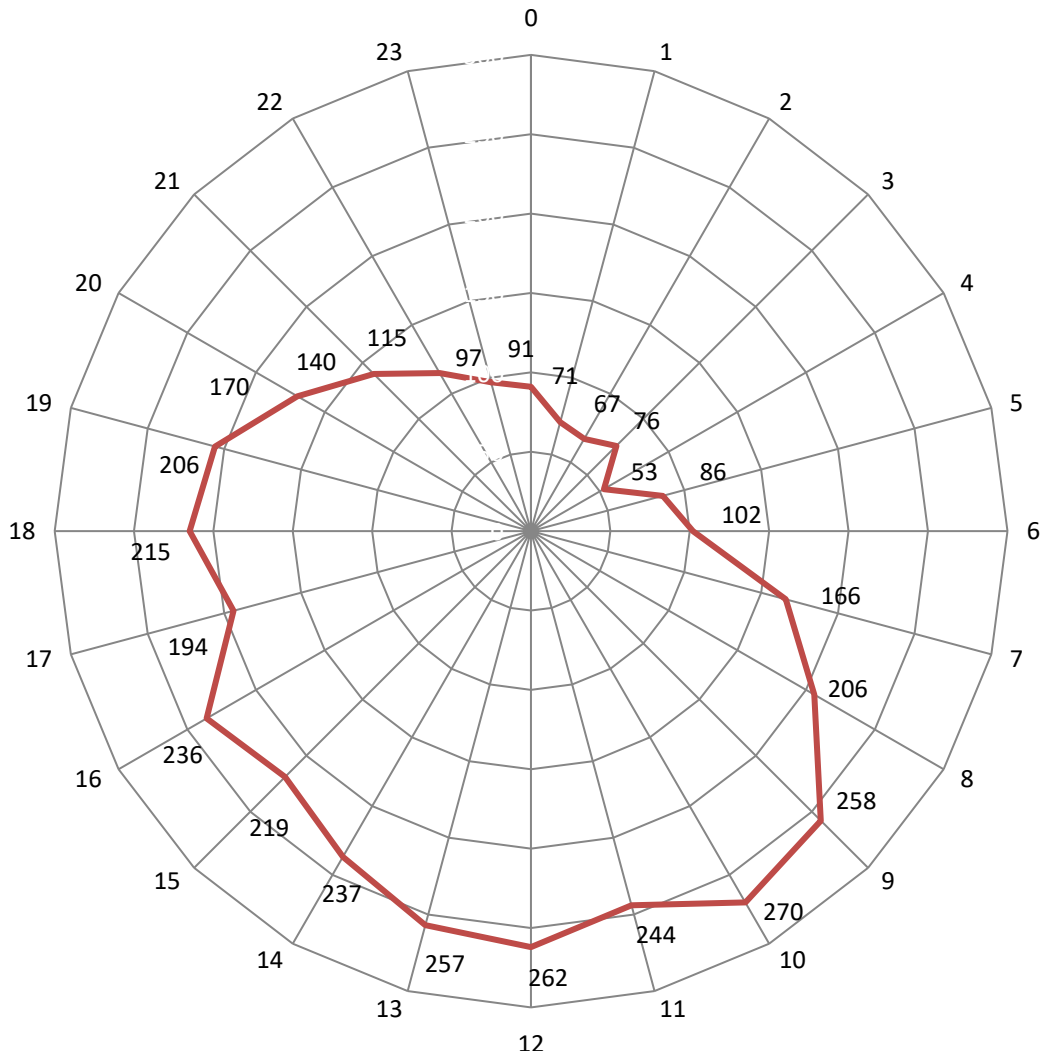


年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和元年	598	575	592	518	615	547	593	4,038
平成30年	590	623	569	514	548	577	615	4,036

時間別救急出場件数

10時台が最も多く、最も少ないのは4時台です。

救急出場件数 4,038件



現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は7.8分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,611件で、最も多くなっています。

事故種別	所要時間					計	平均時間 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	21	234	1,700	479	33	2,467	7.7
交通事故	4	42	190	79	14	329	8.4
一般負傷	3	63	431	169	19	685	8.2
その他	9	163	290	85	10	557	6.9
計	37	502	2,611	812	76	4,038	7.8

病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は39.2分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,554人で全体の67.7%を占めています。

所要 時間 事故 種別	10分 未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	計	平均時間 (分)
急 病	0	34	562	1,558	116	3	2,273	37.4
交通事故	0	1	48	227	57	0	333	44.8
一般負傷	0	4	97	441	95	4	641	44.6
そ の 他	0	9	157	328	29	0	523	36.8
計	0	48	864	2,554	297	7	3,770	39.2

事故種別救急搬送人員

交通事故の増加と労働災害の減少が目立っています。

事故 種別 年	火 災	自然 災害	水 難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自損 行為	急 病	そ の 他	計
令和元年	1	0	0	333	75	58	641	14	13	2,273	362	3,770
平成30年	10	0	0	277	95	43	620	19	15	2,262	379	3,720
増減	△ 9	0	0	56	△ 20	15	21	△ 5	△ 2	11	△ 17	50

△印は減少

傷病程度別救急搬送人員

軽症2,039人（54.1%）、中等症1,581人（41.9%）、重症117人（3.1%）、死亡33人（0.9%）の順となっています。

傷病 程度 事故 種別	火 災	自然 災害	水 難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自損 行為	急 病	そ の 他	計
死 亡	0	0	0	0	0	0	0	0	2	31	0	33
重 症	0	0	0	14	3	0	11	0	3	70	16	117
中等症	1	0	0	56	30	14	249	4	5	888	334	1,581
軽 症	0	0	0	263	42	44	381	10	3	1,284	12	2,039
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	0	333	75	58	641	14	13	2,273	362	3,770

発生場所別救急出場件数

住宅内での発生が2, 194件で全体の54.3%を占め、そのうち急病によるものが81.5%です。

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	計
急 病	1,788	472	54	99	54	2,467
交通事故	1	17	0	306	5	329
一般負傷	368	159	5	103	50	685
そ の 他	37	435	72	4	9	557
計	2,194	1,083	131	512	118	4,038

事故種別年齢別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送が2,380人で全体の63.1%を占めています。

年齢別 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
新生児（28日未満）	0	0	1	0	1
乳幼児（28日～6歳）	91	4	43	3	141
少 年（7歳～17歳）	76	36	27	34	173
成 人（18歳～64歳）	591	184	132	168	1,075
高齢者（65歳以上）	1,515	109	438	318	2,380
計	2,273	333	641	523	3,770

性別科目別搬送人員

性別では男性が多くなっています。科目別では内科が1,902人で最も多く、脳神経外科、整形外科、外科の順となっています。

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性 別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	199	105	319	330	391	271	1,001	901	65	79	3	6
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻科		泌尿器科		その他		合計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	15		9	5	9	15	29	8	7	3	2,032	1,738

高速道路における救急活動状況

高速道別		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
中国道		出動件数	6	1	0	0	7
		搬送人員	6	1	0	0	7
		不搬送件数	0	0	0	0	0
舞鶴道		出動件数	0	1	0	0	1
		搬送人員	0	2	0	0	2
		不搬送件数	0	0	0	0	0
山陽道		出動件数	27	10	6	2	45
		搬送人員	25	9	6	2	42
		不搬送件数	2	3	0	0	5
計		出動件数	33	12	6	2	53
		搬送人員	31	12	6	2	51
		不搬送件数	2	3	0	0	5

応急処置件数

応急処置		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員(人)			2,271	333	640	523	3,767
	止	血	8	11	51	14	84
	被	覆	14	79	142	41	276
	固	定	7	135	80	44	266
	保	温	72	15	15	10	112
	酸	素	364	32	31	102	529
	人	工	3			1	4
	心	臓					0
	心	肺	56	2	4	5	67
	在	宅	12		1	1	14
	血	圧	2,186	329	617	514	3,646
	聴	診	245	68	32	48	393
	血	中	2,221	332	634	518	3,705
	心	電	1,369	84	118	264	1,835
	気	道	94	5	12	13	124
	経	鼻	2			1	3
	喉	頭			2		2
	*	ラ	27			2	29
	*	気	8		3		11
	除	細	1				1
	*	静	41	1	3	3	48
	*	う	7		1		8
	*	う	34	1	2	3	40
	*	薬	13		2		15
	*	血	6				6
	*	ブ	2				2
	そ	の	40	2	7	14	63
	計		6,754	1,095	1,749	1,592	11,190

*印は、救急救命士の特定行為

救助出動状況

出動件数 60 件で前年比 13 件減少、救助人員については 34 名で前年比 13 名減少となっています。

年別 \ 区分	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
令和元年	60	40	34	181	502
平成30年	73	54	47	237	697

地区別救助出動件数

三木地区が 26 件と最も多くなっています。

事故種別では、交通事故によるものが 25 件、建物等による事故が 24 件と全体の 81.7% を占めています。

種別 地区		火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による事故	その他	合計
三 木			7	1		17	1	26
三 木 南		1	2					3
別 所		1	2	1	1			5
志 染			3	1		1	1	6
細 川		1		1				2
口 吉 川			1					1
緑 が 丘						1		1
自由が丘			2			3		5
青 山								0
吉 川		1	6			2		9
管 外								0
そ の 他			2					2
計	出動件数	4	25	4	1	24	2	60
	活動件数	4	14	3	1	17	1	40
	救助人員	0	17	3	1	12	1	34

発生場所別救助出動件数

住居での事故等が 29 件で全体の 48.3% を占め、高速道路・道路での交通事故が 25 件で全体の 41.7% を占めています。

場所 \ 種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合計
屋 内	住 居	4		1	24		29
	その他						0
屋 外	高速道	2					2
	道 路	23					23
	池川等		4				4
	その他					2	2
地 下							0
そ の 他							0
合 計	4	25	4	1	24	2	60